

予報期間 1月20日から1月26日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 22日は、日本付近に強い寒気が流れ込み、冬型の気圧配置が強まる。
- 23日は、冬型の気圧配置が続くが、大陸の高気圧が日本の南へ張り出す。
- 24日から25日は、日本付近は再び冬型の気圧配置が強まる。
- 26日は、大陸の高気圧が日本の南に張り出して、西から冬型の気圧配置が緩む。

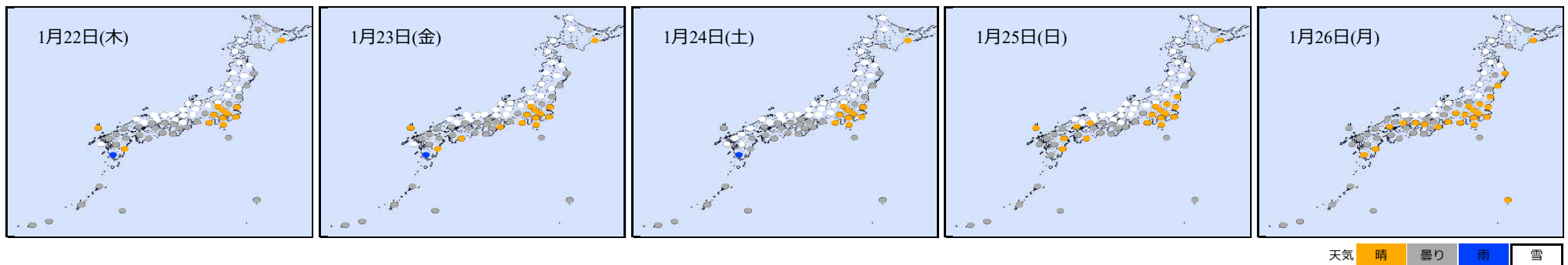
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 21日から25日頃にかけて、強い寒気が南下するため北日本から西日本にかけての日本海側を中心に大雪となるおそれがあり、寒気の程度によっては警報級の大雪となる可能性がある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

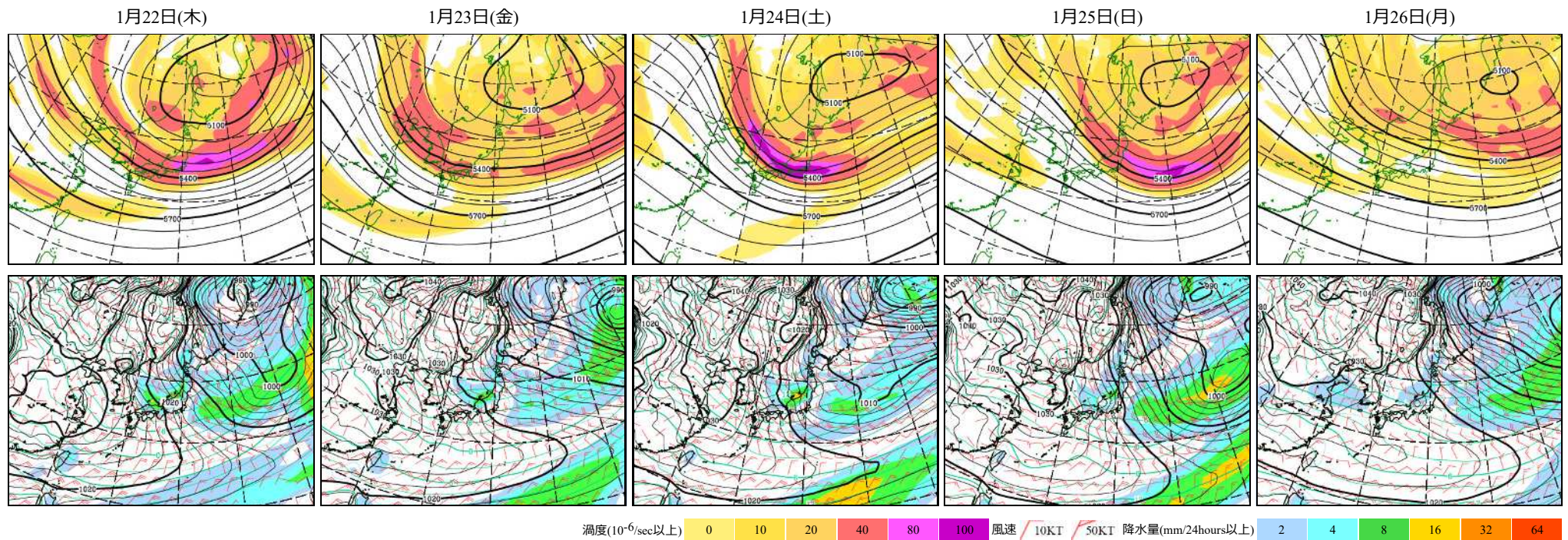
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

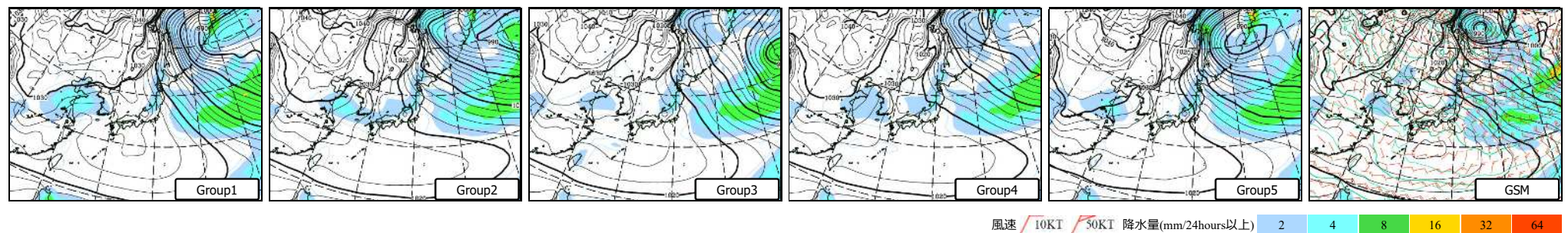


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月26日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、期間を通じて大陸の高気圧の日本付近への張り出しが強くなったが、気圧配置としては25日までは冬型の気圧配置が引き続き予想されており大きな変化はない。
- スプレッドは比較的小さく、特定高度線のバラつきも小さい。
- 25日頃まで、日本付近は冬型の気圧配置が続くことは各モデルそろっている。26日に日本の南に高気圧が張り出すことは各モデルでも予想しているが、高気圧の位置や張り出しのかたにはモデル間で差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。